

主 文

本件上告を棄却する。

当審における未決勾留日数中六〇日を本刑に算入する。

当審における訴訟費用は被告人の負担とする。

理 由

弁護人太田嘉太郎の上告趣意（後記）は、憲法違反、を主張するけれどもその実質は、刑訴四―一条に該当する事由のあることを主張するに帰するのであつて上告適法の理由にならない。また被告人の上告趣意（後記）は、刑訴四〇五条の上告理由に当らない。そして記録を精査しても同四―一条を適用すべきものとは認められない。

よつて同四〇八条一―八―一条刑法二―一条により主文のとおり判決する。この判決は、裁判官全員一致の意見である。

昭和二六年二月一三日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	長 谷 川	太 一 郎
裁判官	井 上	登
裁判官	島	保
裁判官	河 村	又 介